

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

CX週間展望(5月17日~)

ドル・円(1)

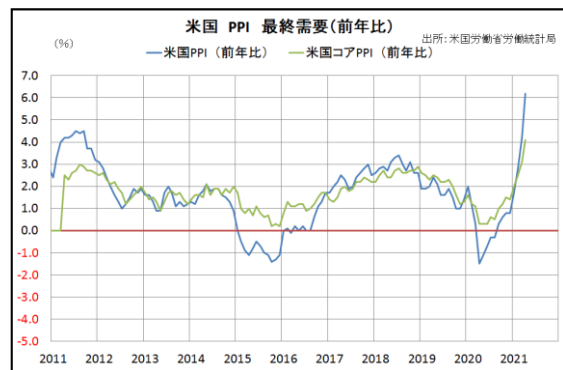
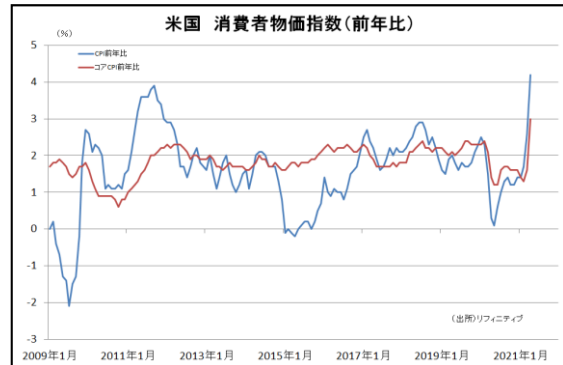
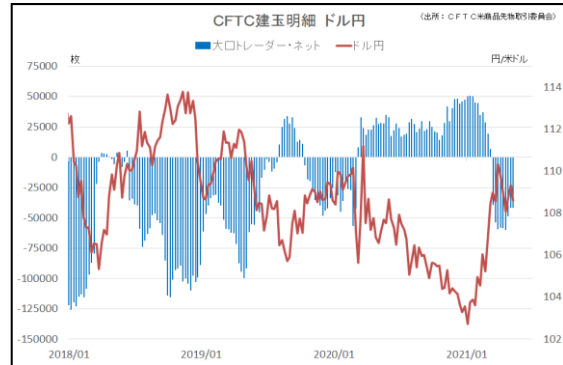
【先週レビュー】

先週レポートで「3月までは、ワクチン接種の進展に伴う景気回復、企業業績回復といった楽観シナリオから米長期金利は上昇・ドル高となっていたが、4月に流れが一服、5月に入り、再度、強気のマクロ経済指標や、好決算などから楽観論が高まるとの期待感もあったが、米雇用統計で、はしごが外された格好となった。~中略)。ドル円の日足チャートは、三尊天井を形成中。週足でもダブルトップを形成しており、ネックライン(4月安値)を割り込むと、弱気感が一気に増すこととなる。同水準を維持できるか否かが焦点」としたが、4月の米雇用統計が市場予想を下回り、量的緩和の長期化観測から対主要通貨でのドル売りが優勢だった流れは一服。12日発表の4月の米消費者物価指数(CPI)など物価指標がインフレ基調の強まりを示すとみられており、週明けは円買いを調整する動きが目立った。

4月の米消費者物価指数(CPI)が市場予想以上に上昇。米長期金利の先高観が強まり、日米金利差の拡大を見越した円売り・ドル買いが広がり、109円台と約1ヶ月ぶりの円安・ドル高水準を付けた。

4月の米卸売物価指数(PPI)は前月比0.6%上昇と、市場予想(0.3%程度)を上回ったにもかかわらず長期金利は低下したことで、上値が抑えられた。

ただ、週間の米新規失業保険申請件数は47万3000件と前週から減り、市場予想(50万件程度)を下回り、労働市場の改善に伴う根強い米景気回復期待から円売り・ドル買いも入った事でドル円の下値も限定的。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (5月17日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、4月の米小売売上高の伸びが市場予想を下回り、米長期金利が前日の1.6%台後半から同前半に低下し、米金利先高観が後退した。幅広い通貨に対してドルが売られ、円買いにつながった。ただ、米株式市場が続伸し、円売り・ドル売りの動きもあり、ドル円の下値も限定的。

CFTC建玉明細(5/11現在)は、41,728枚の売り越し。前週(41,492枚の売り越し)から微増。

NYダウ・ナスダックともに続伸。米長期金利が低下し、前日に引き続き高PER(株価収益率)銘柄が多いハイテク株に押し目買いが優勢となった。経済活動の正常化期待の高まりから、景気敏感株の上昇も目立った。



【今週見通し・戦略】

ドル円は、CPIを受け米長期金利の先高観が強まり、日米金利差の拡大を見越した円売り・ドル買いから一時、109円71銭と約1ヶ月ぶりの円安・ドル高水準を付けた。三尊天井の可能性は後退した格好だが、サイクルからはドル円が高値の節目を付けやすい新月の時間帯でもあり、早々に高値更新できなければ、パターン分析の



「ダイヤモンド・フォーメーション」もしくは、一目均衡費用の「Y字型」形成からの放れ待ちへ移行しそうだ。

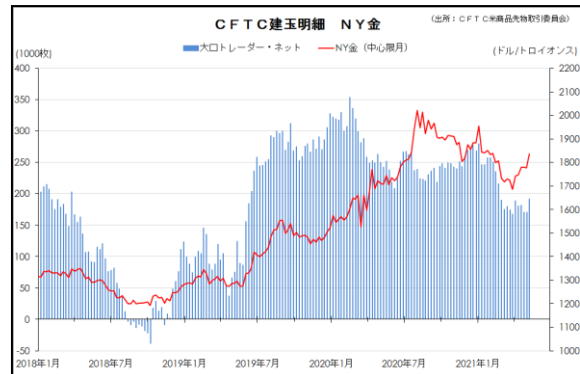
クラリダFRB副議長は12日の講演で物価上昇は一時的との見方を強調し「今後さらにやや上昇した後、年後半には落ち着いていく」との考えを示している。パウエルFRB議長も、「インフレは一時的」との見解を継続している。

金標準先物(5/14 清算値:6,413円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《NY金(6月限)は、ネックライン(3/18 高値:1756.1ドル)を再度、上抜き、リターンムーブからの反発パターンとなった。

ネックラインが下値支持として機能し、価格帯別出来高の厚い1700~1750ドルで底固めが確認された格好だ。



~中略)。米長期金利上昇と共に金相場の上値を抑えていたユーロも底打ち反転となっている。ただし、RSIなどのオシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感領域に接近しており、一時的な調整安には注意したい。

それでも、3月~4月に付けたダブルボトムを割り込まない限り、中長期的な押し目買い基調は継続するだろう。FRBが一過性と考えている足元のインフレは一時的に一服しても、持続的なインフレが残る、もしくは想定以上にインフレが加速する可能性さえあるだろう」としたが、先週のNY金(6月限)は、米パイプライン最大手のコロニアル・パイプラインが、サイバー攻撃により操業を全面的に停止し、原油高に振れたことや、外国為替市場でドルが英ポンドに対して売られ、2月11日以来の高値1846.3ドルを付けて始まった。

12日発表の4月の消費者物価指数(CPI)が前年比4.2%上昇し、約12年半ぶりの大幅な伸びを記録した。事前予想の3.6%上昇を上回った。インフレ懸念の高まりが金の支援要因になったが、短期金融市場で2022年末までの利上げ確率が100%となり、米国債の利回り上昇からドル高に転じたことが金の圧迫要因になった。

米生産者物価指数(PPPI)や米新規失業保険申請件数が強い内容となったが、米国債の利回り上昇が一服し、押し目を買われた。4月の米生産者物価指数(PPPI)は前年比6.2%上昇し、前月の4.2%から加速。米新規失業保険申請件数は、47万3000件と前週から減り、市場予想(50万件程度)を下回ったが、米国債の利回り上昇が一服し、金の押し目は買われた。

3
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金標準先物(5/14 清算値:6,413円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(6月限)は、続伸した。4月の米小売高、鉱工業生産高、設備稼働率が事前予想より弱い数字となったことからドル安、米長期金利の低下を背景に上げ幅を拡大した。前半でいったん上げ幅を縮小したが、中盤から終盤にかけては利食い売りを吸収し、堅調な値動きを維持した。

CFTC建玉明細(5/11 現在)は、192,255枚の買い越し。前週(170,741枚の買い越し)から拡大。

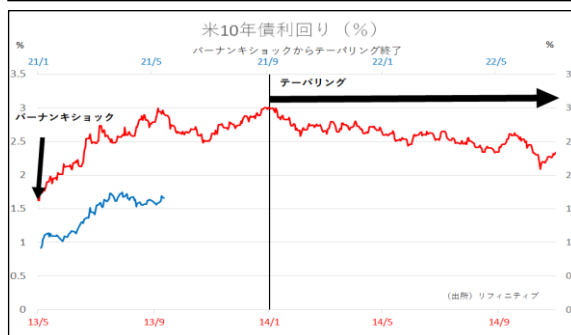
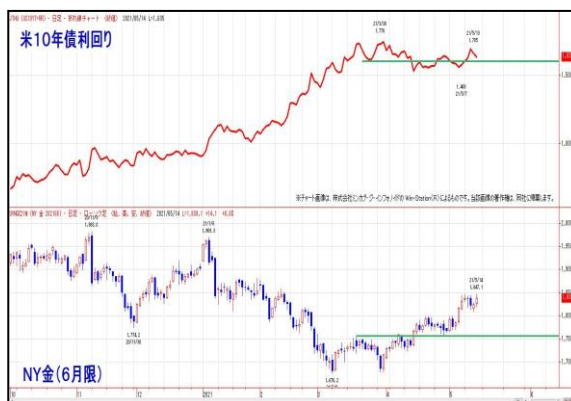
【今週見通し・戦略】

バーナンキショック時の10年債利回りを振り返ってみると、バーナン

キFRB議長の発言後に金利は上昇したが、実際のテーパリング(金融緩和の段階的縮小)が始まってからは、金利は下落傾向を辿った。

今回も非常に似通った足取りを描いており、このまま自己相関の強い流れが続くなら、金(GOLD)の下値は限定的となろう。テーパリングの時期も早くても来年以降と見られており、ドルの上値は限定的となる。この場合は、緩やかな金の上昇が続くだろう。

一方、米国とイランの核合意復帰交渉が決裂、中東情勢の緊張が増し、供給障害を伴う地政学リスクが高まったり、米国の穀倉地帯が夏場に干ばつなどに見舞われた場合、急速なインフレ懸念の高まりから、金相場は「安全資産」「インフレヘッジ」などの顔を再評価され、急速な上昇を見せる可能性もあるだろう。欧州連合(EU)のボレル外交安全保障上級代表(外相)は10日、イラン核合意の再建に向けた米イラン間接協議について、今後数週間が重要な局面になると述べた。高騰を見せる商品相場の中で相対的な割安感のある金相場は、下値は限定的、上値余地は、スピード感の違いだけかもしれない。

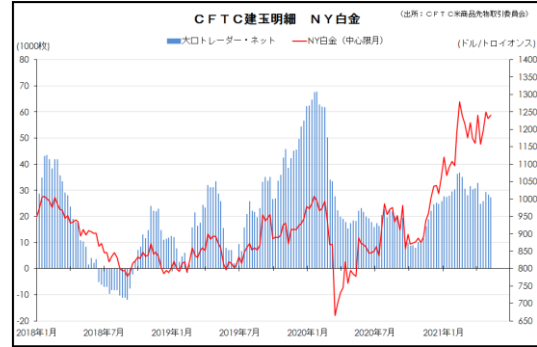


4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金先物(5/14 清算値:4,288円)

【前週レビュー】

先週レポートで「2021年の自動車のプラチナ需要は25%増加し、コロナ禍以前より5%多い300万オンス(85トン)に迫る。予測では今年の普通乗用車生産台数がコロナ禍以前から約110万台減り、大型車の生産台数も昨年より1%少ないとされているにもかかわらず、自動車のプラチナ需要は、2018年以来最も多くなる見通し。これは、欧州と中国で実施される厳格な排ガス規制で、普通乗用車、大型車ともに、使われるプラチナの量が増えていることがある。ただし、足もとでは、自動車業界では半導体不足による大規模な生産障害が発生しており、当面の販売にも影響が出るとみられている」としたが、先週のNY白金(7月限)は、原油高や金の押し目を買われたことを受けて堅調となり、2月24日以来の高値1281.4ドルを付けた後、週末にかけて続落となった。予想以上の米消費者物価指数(CPI)や、金上昇を受けて、押し目を買われる場面もあったが、米国債の利回り上昇を受けてドル高に転じたことや金反落を受けて戻りを売られた。株安も圧迫要因となった。米PPIを受けた金高・株高も、米国のパイプライン再開で原油安に振れたことが圧迫要因になった。



週末のNY白金(7月限)は、反発。金の続伸、アジア、欧州株の上昇を受けて買い優勢となり、20ドル超の上昇となった。金、銀が堅調な値動きを維持、米国株の続伸から戻り売りを吸収し、堅調に引けた。

週末のNY白金(7月限)は、反発。金の続伸、アジア、欧州株の上昇を受けて買い優勢となり、20ドル超の上昇となった。金、銀が堅調な値動きを維持、米国株の続伸から戻り売りを吸収し、堅調に引けた。

CFTC建玉明細(5/11 現在)は、27,267枚の買い越し。前週(28,231枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

半導体問題が、金と比較して上値が重い一因だが、レモンド米商務長官は、半導体不足を巡る問題について協議するため、20日に自動車業界など関連業界の幹部と会合を開く予定。

ゴムRSS3(5/14 清算値:252.0円)**【先週レビュー】**

先週レポートで《ネックライン(4月15日高値)を上抜き、三角保合い上放れで上げ加速となった。2月高値~4月安値までの下げ幅に対する半値戻し(258.1円)を達成。同水準は、一目均衡表の雲の下限と重なり、週末は上値抵抗線として機能し、上ヒゲ陰線引けとなった。61.8%戻しは、266.4円。



基準線~転換線が下値支持帯。懸念されたタイ政府在庫放出は、オークションが成立した模様だが、保管期間が長かったため受渡供用品に見合わないと思われることや、タイのソンクランの水祭りの時期を過ぎたものの、ウィンタリング(落葉期・減産期)は、継続していることから下値は限定的か。雲のねじれの時間でのトレンド変化にも注意したい」としたが、先週のRSS3号は、週前半は先週の流れを引き継ぎ堅調推移も、週後半にかけて中国当局が「商品価格動向を注視している」との声明を出し、大連取引所の鉄鉱石等がS安を含む急落、上海ゴムも急落し、国内市場も先限245円台まで下押された。

【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、4月30日現在10,896トン(前旬比110トン増)。4月下旬の入出庫は入庫848トン、出庫738トン。

【今週見通し・戦略】

中国汽車工業協会(CAAM)が発表した4月の自動車販売台数は前年比8.6%増の225万台となり、これで13カ月連続増となった。ただ、中国の3月の自動車販売台数は253万台であり、前月比では減少となった。これは半導体不足の影響。中国の全国乗用車市場情報連合会(乗連会)は、5月の中国自動車販いて、自動車用半導体不足の影響から、前年比の伸びが抑えられるとの見解を出している。

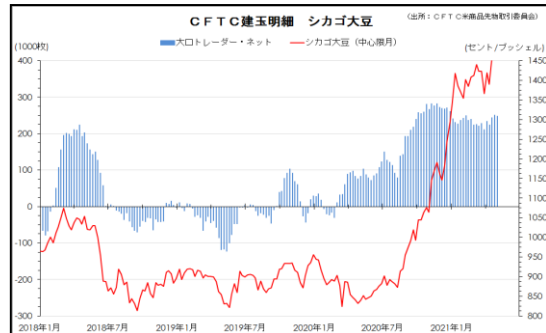
4月安値~5月高値までの上昇に対する半値押し達成。61.8%押しの237.6円が試される流れ。

6
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

一般大豆先物(5/14 清算値:46,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「価格が上昇するなか、週間純輸出成約高は落ち込みを見せており、レイショニング（価格高騰に伴う需要減少）の気配も見えるものの、天候相場を経て、秋の収穫の時期までは、需給ひっ迫に対する警戒感が価格を下支えすると思われる」としたが、先週のシカゴ大豆（7月限）は、米農務省需給報告で、21/22年度の米国の生産量見通しは前年度よりも増加したものの、旺盛な輸出や国内需要を受けて期末在庫率は3%台と引き続き危機的水準になるとの見通しが示されたことから1667.5セント（5/12高値）まで上値を伸ばした。ただ、米産地気温上昇観測によって生育不良に対する警戒感が後退したことで急反落。週間純輸出成約高の弱気な内容も一因。



週末のシカゴ大豆（5月限）は、前日に大きく値を落とした後の修正から買い戻す動きから反発。米国の需給引き締まりが次穀物年度まで続くとの見方も強気要因となった。ただ、コーンが大幅続落となったことや、米産地の気温上昇予測が弱材料となり上げ幅を大きく縮小しての終了となった。

CFTC建玉明細（5/11現在）は、245,908枚の買い越し。前週（247,587枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（4月29日までの一週間）】

35万8200トン（事前予想レンジ：10万～80万トン）

【週間作物進捗報告（5月9日までの週）】

作付け：42%（前週8%、前年24%、平年22%）

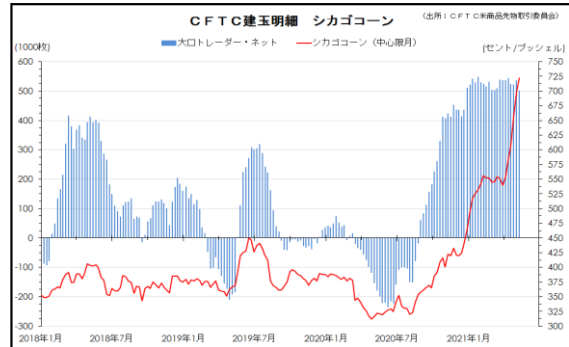
【今週の見通し・戦略】

大豆の最終生産高に大きな影響を与えるのは8月の産地の天候であり、それまでは、低在庫率を背景に、レイショニング（価格上昇に伴う需要減少）が確認されるまでは、押し目は買われやすい地合いが続きそうだ。

とうもろこし先物(5/14 清算値:36,340円)

【先週レビュー】

既存レポートで「作付遅れが改善しており、上値抵抗となっている8ドル水準前に調整が入る可能性もあるが、生育遅れ等があった場合は、値頃無用の展開となる」としたが、先週のシカゴコーン(7月限)は、長期的な需給ひっ迫見通しを受けて買い進まれていた新穀限月



中心に売られた。週間純輸出成約高は強気な内容だったにもかかわらず、S安を付ける乱高下となった。米農務省需給報告で示した21/22年度の需給改善見通しに加え、米産地での気温上昇予報を受けて寒波による生育不良に対する警戒感が後退したことが弱材料となった。

週末のシカゴコーン(7月限)は、大幅続落。需給報告で21/22年度の期末在庫率が2けた台となったことを受けて需給ひっ迫懸念が和らぐなか、需給引き締まりに対する警戒感から買い進まれていた期近の主要限月を中心に調整売りが活発化した。米産地の気温上昇観測も弱気要因。

CFTC建玉明細(5/11現在)は、500,856枚の買い越し。前週(536,146枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(4月29日までの一週間)】

24万3600トン(事前予想レンジ:55万~120万トン)

【週間作物進捗報告(5月9日までの週)】

作付け:67%(前週46%、前年65%、平年52%)

発芽率:20%(前週8%、前年22%、平年19%)

【今週の見通し・戦略】

調整局面入りだが、天候相場の天山と言われる独立記念日の7月までは、生育が順調に推移するか、レイショニングが確認されない限り、押し目は買われやすい地合いが続きそうだ。安値売込みは避けたい。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (5月17日~)

東京原油(1)

【先週レビュー】

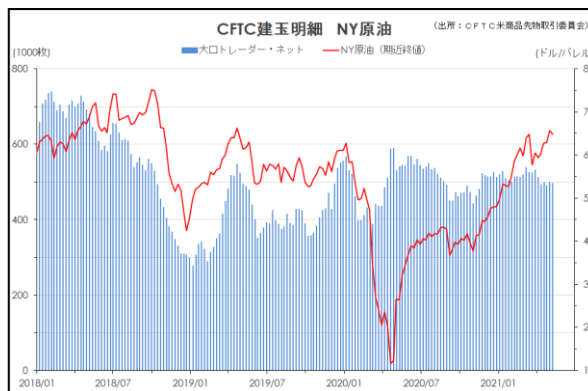
先週レポートで「原油市場は、6月のイラン大統領選挙へ向けて神経質な綱渡りの状況が続く。米国とイランが欧州を仲介役として核合意復帰に向けた協議を継続している一方、イスラエルがイラン核施設へサイバー

攻撃を実施、イランが報復を示唆するなど、中東情勢にキナ臭さが増している。

ただ、国際原子力機関（IAEA）は4月22日、イランが核施設で濃縮度最大60%のウラン製造に利用する遠心分離機の数減らしたことが明らかにし、米国はイランに対して制裁解除へのロードマップを提示するなど、今後の進展への道筋を示した。

更に、2016年に国交を断絶したサウジアラビアとイランの高官が関係修復に向けて4月に交渉開始した模様。イラン大統領選挙前に、電撃的な米・イランの核合意復帰が決まれば、原油市場の下落・インフレ懸念の後退もあるだろう。

一方、イスラエルの反対は根強く、偶発的な供給障害や、核合意復帰ならずとなれば、原油の上値余地は大きくなる」としたが、先週のNY原油（6月限）は、米最大級の石油パイプラインが7日（金）にサイバー攻撃によって停止し、供給が減るとの観測から買いが優勢で始まった。環境関連の米規制当局が11日（火）、大西洋岸地域のガソリン不足を解消するため、短期的に環境規制を緩めるとの通達を出したと伝わり、想定以上に需給が逼迫しているとの見方や、米国ではワクチン接種が進展し経済活動が正常化に向かっていることや、今回のサイバー攻撃を背景にインフラの脆弱性が警戒されたことなどから高値圏で推移していたものの、サイバー攻撃を受けて供給が止まっていた米石油パイプライン大手のコロニアル・パイプラインの稼働が再開されたことで、米南東部を中心に懸念されていた需給ひっ迫が解消されるとの見方で大きく崩れる展開となった。コロニアル・パイプラインはサイバー攻撃の影響で7日に主要ラインの操業を停止したが、想定より早い12日夜に稼働を再開した。米エネルギー省のジェニファー・グランホルム長官は「13日にも悪影響が及んだ複数の州に燃料が供給される」と述べたと伝わった。



Weekly-Report


日産証券

C X 週間展望 (5月17日~)

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)**【週末のNY市場】**

NY原油(6月限)は、反発した。米経済指標は事前予想ほど強い数字ではなかったが、ユーロや英ポンドなど主要通貨に対してのドル安、アジア株に続き、欧米の株価の上昇から、需要増加期待が強まり、一段高となった。65ドル台を回復し、終盤も戻り売りを吸収し、この日の高値圏で引けた。米石油パイプライン大手のコロニアル・パイプラインの稼働再開は13日の下落で織り込み済みとなった格好。ただし13日の下げ幅を取り戻すには至らず、週足は陰線引けとなった。



CFTC建玉明細(5/11現在)は、496,561枚の買い越し。前週(500,013枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが14日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は前週比8基増の352基と、2020年4月以来の高水準となった。

一方、天然ガス掘削リグ稼働数は前週比3基減の100基と、減少幅は20年7月以来の大きさとなった。

【石油輸出国機構(OPEC)月報】

石油輸出国機構(OPEC)月報によると、4月の加盟国の産油量は前月比0.1%増の毎日2508万バレルになった。OPECと非加盟産油国で構成するOPECプラスは5月から段階的に産油量を引き上げる方針で、4月は前月からほぼ据え置いた。加盟国別では、最大の産油国サウジアラビアは0.4%増の813万バレル。アラブ首長国連邦(UAE)も0.2%増の261万バレルだった。一方、リビアは5.6%減の113万バレル、ベネズエラが15.4%減は44万バレル。2021年の世界全体の石油需要予想は毎日9646万バレルに据え置いた。1~3月期、4~6月期の需要予想を引き下げる一方、7~9月期、10~12月期は引き上げた。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月17日~)

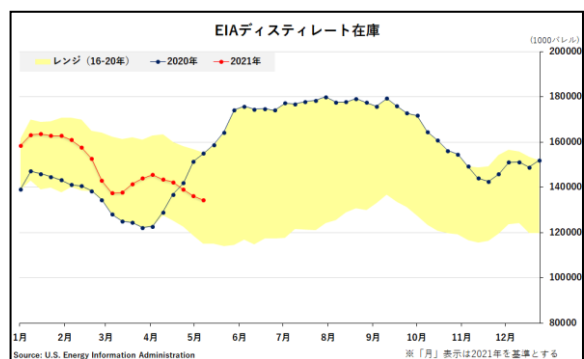
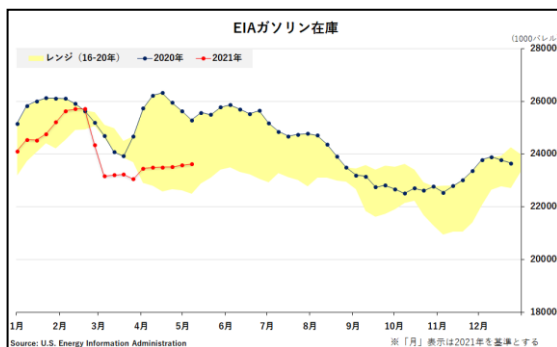
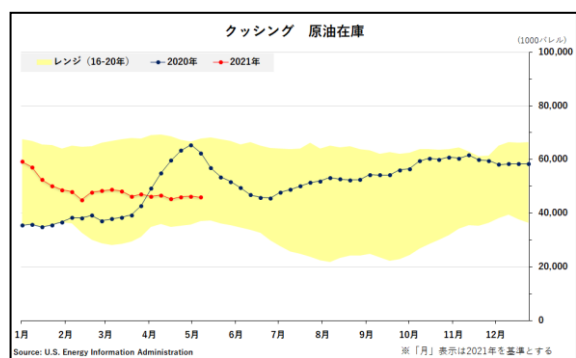
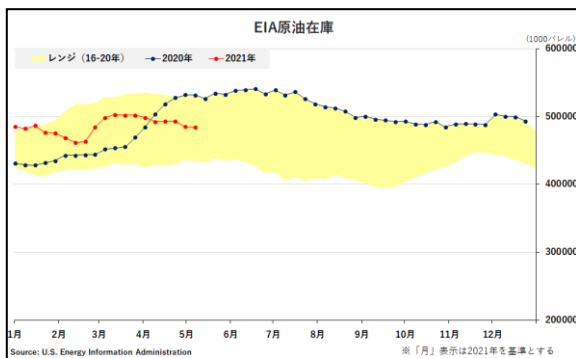
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億8469万バレル	42万6000バレル減少
クッシング	4591万バレル	42万1000バレル減少
ガソリン	2億3619万バレル	37万8000バレル増加
留出油	1億3442万バレル	173万4000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(2日~8日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比0.4%減の191万5368キロリットル。灯油在庫は、同3.8%増の149万2671キロリットル。週間原油処理量は7.2%減の249万8759キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが同7.8%減の72万0465キロリットル、灯油が同6.6%増の11万8446キロリットル。

11
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

東京原油(4)

【米エネルギー情報局 (EIA) 月報】

2021年の世界石油需要の伸びに関する見通しを日量8万バレル下方修正し、同542万バレルとした。

22年の世界石油需要の伸びは日量8万バレル引き下げ、同373万バレルとした。

【国際エネルギー機関 (IEA) 月報】

新型コロナウイルスのワクチン接種拡大で需要は回復しており、すでに需要が供給を上回っているとの認識が示された。イランが輸出を増やす場合でも供給不足は拡大すると見通している。ただ、インドなどで新型コロナウイルスが大流行していることから、今年の世界石油需要の伸びを日量540万バレルとし、前回の月報から同27万バレル下方修正した。

今年前半の原油の需要見通しを引き下げた。ただ、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などを理由に年後半の見通しは据え置いた。

【見通し・戦略】

バイデン政権の対イラン政策が、オバマ政権よりは厳しく、トランプ政権よりは緩いと思われることもあり、ここにきて中東で新たな枠組みへの動きが相次いでいる。4月9日、イラクのバグダッドで、イランとサウジアラビアの代表者が、2016年に断交して以来初めて会談した。4月30日には、バイデン大統領とモサド（イスラエル諜報特務局）のコーエン長官がワシントンで会談。イスラエルによるイラン核施設へのサイバー攻撃にも関わらず、核合意維持に向けた合意当事国の英仏独中ロとイランの会合が継続協議されており、米 국무省高官は5月6日、イラン核合意維持に向けた交渉について、6月18日のイラン大統領選までの妥結は可能だとする見方を示した。一方、イスラエル・パレスチナの報復合戦が激化している。イスラエルの組閣難航とパレスチナの選挙延期を受け、互いに強硬姿勢がエスカレートしている。このような中、米国がイラン核合意に復帰できるなら、高騰している原油市場に落ち着きが出る可能性はある。イスラエルは、イランの核開発を遅延させ、その間にイランの体制転換の可能性を追求することを考えていると思われ、米国の核合意復帰には賛成と見られる。一方、合意できずとなれば、原油市場の上値リスクは高まるだろう。

12
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望 (5月10日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (5/17~5/23)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
5月17日(月)	8:50	日本	4月	企業物価指数(前月比)
	8:50	日本	4月	企業物価指数(前年比)
	11:00	中国	4月	固定資産投資(前年比)
	11:00	中国	4月	鉱工業生産(前年比)
	11:00	中国	4月	小売売上高(前年比)
	19:00	ユーロ圏	4月	準備資産総額
	21:30	米国	5月	NY州製造業況指数
5月18日(火)	23:00	米国	5月	NAHB住宅市場指数
	8:50	日本	Q1	国内総生産(GDP)1次速報値(前期比)
	15:00	ドイツ	4月	生産者物価指数(PPI)(前月比)
	15:00	イギリス	4月	失業手当受給者数増減
	15:00	イギリス	3月	失業率(ILO基準)
	18:00	ユーロ圏	Q1	国内総生産(GDP)2次速報値(前期比)
	21:30	米国	4月	建設許可件数
5月19日(水)	21:30	米国	4月	住宅着工件数
	15:00	イギリス	4月	消費者物価指数(CPI)(前年比)
	15:00	イギリス	4月	小売物価指数(前月比)
	15:00	イギリス	4月	生産者物価投入指数(PPI)(前月比)原数値
	15:00	イギリス	4月	生産者物価指数(PPI)コア産出指数(前月比)原数値
	18:00	ユーロ圏	4月	EU基準消費者物価指数(HICP)改定値(前月比)
	18:00	ユーロ圏	4月	EU基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー・酒・タバコ除)改定値(前月比)
5月20日(木)	8:50	日本	3月	機械受注 船舶・電力除<民需(前月比)
	8:50	日本	4月	輸出(前年比)
	8:50	日本	4月	輸入(前年比)
	8:50	日本	4月	貿易収支
	19:00	イギリス	5月	CBI 動向-受注
	21:30	米国	5月10日, 週次	新規失業保険申請件数
	21:30	米国	5月	フィラデルフィア連銀 業況指数
5月21日(金)	納会	米国	---	NY原油2021年6月限納会
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細
	8:01	イギリス	5月	GfK 消費者信頼感指数
	8:30	日本	4月	全国コア消費者物価指数(CPI)(前年比)
	8:30	日本	4月	全国消費者物価指数(CPI)総合(前年比)
	15:00	イギリス	4月	小売売上高(前月比)
	15:00	イギリス	4月	小売売上高 除燃料(前月比)
	16:30	ドイツ	5月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値
	16:30	ドイツ	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)速報値
	16:30	ドイツ	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:00	ユーロ圏	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:30	イギリス	5月	総合購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:30	イギリス	5月	製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値
	17:30	イギリス	5月	サービス部門購買担当者景気指数(PMI)速報値
	22:45	米国	5月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)速報値
22:45	米国	5月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値	
22:45	米国	5月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)速報値	
23:00	米国	4月	中古住宅販売戸数	
23:00	ユーロ圏	5月	消費者信頼感指数 速報値	
5月22日(土)				
5月23日(日)				

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

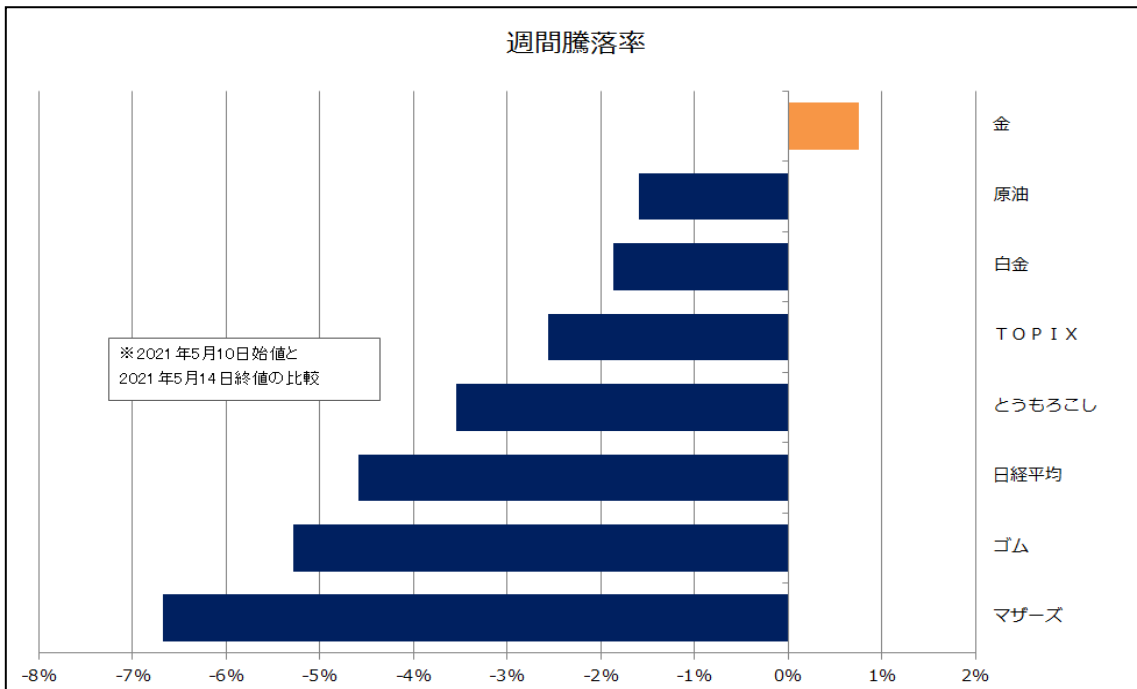
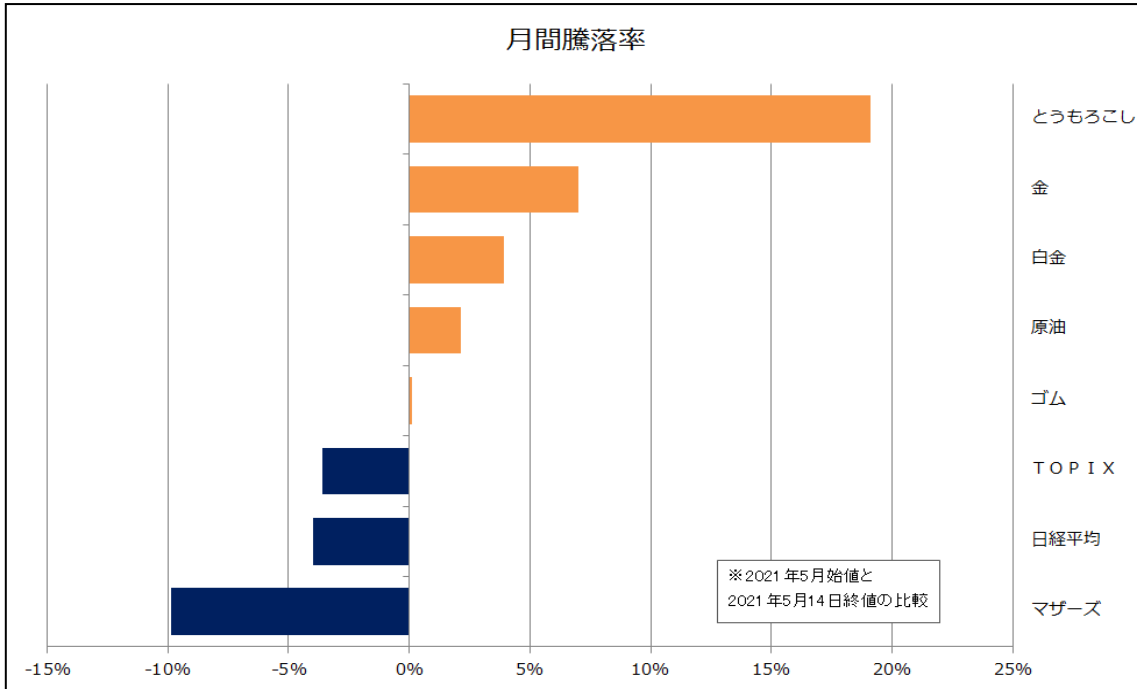
Weekly-Report



CX週間展望 (5月17日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



14
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社 (〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11)

関東財務局長 (金商) 第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。